

10
(火)

身代わりの申し出

創世記四四章18〜34節

それでどうか僕をこの子の代わりに、ご主人様の僕としてここにとどめ置き、この子は兄弟と一緒に上らせてください。(33)

自分たちの罪を認めた兄弟たちに対して、ヨセフは最後のテストをします。ヨセフがわざと嫌疑をかけた末弟ベニヤミンを、兄たちが見捨てて帰ってしまうかどうかを見極めるためでした。ユダが兄弟を代表して弁明し、父ヤコブがどれほど心を痛めているかを語りながら、今日の聖句のように、自らがベニヤミンの身代わりになることを申し出ました。この言葉でテストは終了しました。このユダの言葉は、やがてユダの子孫として世に來られる御子キリストを思い起こさせます。御子イエスは私たち全ての人の罪のために、ご自分の命を差し出してくださったのです。それにより、私たちは滅びから救い出されました。族長たちの罪の歴史の中に、キリストの福音が輝きを放っています。キリストによる救いの恵みを今日も覚えながら、喜びに生かされる者たちでありたいと願います。